

神社名：王子神社      おうじじんじゃ

住 所：北区王子本町1-1-12

調査月日：2020年2月1日

調査参加者：栗田、神川、河辺、有田、木村、梅田、宮崎、小幡、浅見、竹内、小林、木村（怜）  
定本

写 真：



由来など：王子権現は、縁起によれば紀州熊野三所を勧請したもので、祭神は速玉之男命、伊弉册尊、事解之男命である。王子村は古くは岸村といったが、同社が勧請されて王子村と改めたという。勧請の年代は不詳であるが、康平年中（1058-65）源義家が奥州征伐（前9年の役）の時、ここで金輪仏頂の法を修せしめ、凱旋の日、甲冑を奉納したと縁起にあるので、それ以前の勧請であると推定される。

文保（1317-19）、元弘年中（1331-34）豊島氏が修造し、その後小田原北条氏が社領を寄進していることが「小田原衆所領役帳」に記されている。天正19年（1591）、社領200石の朱印が付され、寛永11年（1634）徳川家光は酒井雅楽頭に社殿を造営するよう命じ、林羅山にこの権現を新たに書くように命じた。天明2年（1782）、文政3年（1820）幕府によって修理が加えられている。

祭礼は花鎮祭といい、3月10日に行われていたが、廃されてしまった。また、7月13日の祭礼には田楽舞という式が行われており、正月13日には十八講が行われ、年中大小の祭礼は七十余りになる。《「新編武蔵風土記稿」現代文に要約》境内には大イチョウ、関神社がある。

（北区文化財案内より）

- ・王子神社境内の大銀杏（東京都指定文化財）
- ・王子神社の田楽舞（北区無形文化財）

祭神など：伊弉諾尊、伊弉册尊、天照大神、速玉之男命、事解之男命

空間位置・面積等・植生など：戦災で焼失した社叢や社殿は再建されて、社殿の背景にはシラカシ林が成立し、境内には大径木のクスノキが林立している。消失を免れた大イチョウが石神井川側のあり、胸高直径2mはありそうだ。

社叢としては十分役割を果たしている樹木林であるが、更新はそのような配慮をしていないようなので難しいと思われる。

地図上の位置：



平面図：調査せず

